

## 小学校・道徳の内容項目の解説

# 自然愛・動植物愛護

### ●小学校学習指導要領（平成20年3月）

3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること		[一般的な呼称例]
低学年	(2) 身近な自然に親しみ，動植物に優しい心で接する。	自然愛・動植物愛護
中学年	(2) 自然のすばらしさや不思議さに感動し，自然や動植物を大切にする。	自然愛・動植物愛護
高学年	(2) 自然の偉大さを知り，自然環境を大切にする。	自然愛・環境保全

### ●解説

関連の説明	自然や動植物とのかかわりに関するものであり，自然や動植物を愛し大切にする児童を育てようとする内容項目である。主に，第3・4学年の3の(2)及び第5・6学年の3の(2)と深くかかわっている。
全体的な理解	古来日本人は，自然の恵みに感謝し，自然との調和を図りながら暮らしてきた。自然に親しみ，動植物が自然の中でたくましく生きてきた知恵や巧みさに学び，自然と一体になりながら動植物を愛護し，豊かな情操を育ててきたのである。動植物は自然環境の中で生きており，それぞれの環境に適応して生活を営んでいる。人間も地球に住む生物の一員であり，環境とのかかわりを抜きにしては生きていけない存在である。ところが，科学技術の進歩等に伴う物の豊かさ，便利さは，人間が本来もっていた感性や資質を弱くしてしまっているとも言われる。自然や動植物を愛し，自然環境を大切にしようとする態度は，地球全体の環境の悪化が懸念されている現在，特に身に付けなければならないものである。
低学年	この段階においては，特に身近な自然の中で遊んだり，動植物の飼育栽培などを経験し自然や動植物などと直接触れたりすることを通して，それらに対するやさしい心を養うことが求められる。動物や植物のもつ不思議さ，生命の力，そして，共に生きていることの愛おしさなどを感じることによって，自然や動植物を大事に守り育てようとする気持ちが強くはぐくまれる。
中学年	この段階においては，特に自然に親しみながら自然のもつ美しさやすばらしさに感動するとともに，その恐ろしさや不思議さなどを含めて感じ取ることができるよう指導する必要がある。それらを踏まえて，自然やその中に生きる動植物を大切にする心を更に深めていくことが求められる。
高学年	この段階においては，さらに，人間の力が及ばない自然の偉大さを理解し，自然に学ぶ態度を身に付ける必要がある。そして，自然環境と人間とのかかわりから，人間も自然の中で生かされていることを考え，人間と自然や動植物との共存の在り方を積極的に考え，自分にできる範囲で自然環境をよくしようとする態度をはぐくむようにすることが望まれる。

文部科学省「小学校学習指導要領解説・道徳編」（平成20年8月）より

### ■参考：中学校学習指導要領（平成20年3月）

3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること		[一般的な呼称例]
(2) 自然を愛護し，美しいものに感動する豊かな心を持ち，人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。		自然愛・畏敬の念